

- 越後平野において、トキ・ハクチョウをシンボルとして、その安定的な生息に向けた地域間の情報交換や様々な活動を通じて、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を目指すことを目的として、令和元年7月に「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を設立
- 次年度策定を予定している「全体構想」の原案について、有識者をはじめとする皆様らからご意見・情報提供を頂くため、4回目の推進協議会を開催。

【概要】

■開催日時

令和5年3月8日(水) 10:00~12:00

■プログラム

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 規約の改定(案)
 - (2) 前回(第3回協議会)の報告、越後平野における生態系ネットワークのWebサイト、親しみやすくする取組、全体構想への意見募集について
 - (3) 部会の開催状況報告
 - (4) 越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想(案)
 - (5) 行動計画策定の進め方、越後平野生態系ネットワーク行動計画(2030)の骨子(案)
 - (6) その他、今後のスケジュールについて
4. 閉会

【前回(第3回協議会)の報告】等のご意見

- ・ 自然再生におけるネットワークの重要性が、社会の中では認識されていない。本事業で意識改革を進めていかなければならない。河川と共に周辺農地や森林との繋がりの中で生き物は生き、それを支える地域振興を考え、多くの人たちが関わる生態系ネットワークの構築が重要であるということ、本事業を進めていく上でご理解いただきたい。
- ・ 関係する市町村の首長に出席いただき、トップがその効果等を理解していると、その波及効果はより大きなものとなると思う。
- ・ 地域のグリーンインフラをどのように構築、持続させるのか、地域の首長を先頭に、地域の皆さまが理解を深めることが重要。
- ・ ウェブサイトに問合せフォームを設け、問合せカテゴリーが用意されていると良い。質問・意見を取り入れる旨みを示すと、地域の自然環境の情報共有等、意見が出やすくなると思う。ご意見は、市長村や関係機関に対して情報共有し、地域に落とし込むと良い。その結果、関係機関の方もウェブサイトを利用するようになり、さらにご意見が届くようになると思う。
- ・ 越後平野は主に潟環境と平野部、山との林縁部に広がる里地里山環境という、二つの環境に大きく区分できる。潟を中心とした水辺環境はガン・ハクチョウ類を指標種とし、里山環境はトキを指標種にするという考え方もある。越後平野全体を広く扱うよりも、潟と平野、里地里山に対して、それぞれで地域再生に取り組む手法が重要。それにより、浸透スピードが変わると思う。

【部会の開催状況報告】のご意見

- ・ 実感、経験したものを共有、検討することで新しいイノベーションが生まれる。まずは自分たちが体験して魅力を知ると良い。
- ・ ビジネスとして進めるなら、このような仕事もあると目を向けてもらうためにも、お金を取っていくことも非常に重要。
- ・ Eco-DRRを取り入れた治水事業等を進められると良い。自然再生事業であり、防災や減災を組み込むというものである。
- ・ 農地の耕作放棄地の土地利用をどのように向き合うか、考えていく必要がある。例えば遊水地として活用すると、Eco-DRR、グリーンインフラの一つにもなり、かつ観光に活かせるような、繋がりができてくると良いと思う。Eco-DRRから、エコツーリズムのような展開ができるのではないかと。そのためにも、ネットワークを構築していくことが重要。
- ・ 専門学校、新潟県内にある自然環境関係、農業やバイオ関係の専門学校等の学生も取り込んでいくと良いとの意見もあった。
- ・ 国土交通省が取り組んでいる事業の中で、すでに生態系ネットワークの場づくりに該当するところをアピールすると良いと思う。

【越後平野における生態系ネットワーク全体構想(案)】のご意見

- ・ 「人材の育成」も入れたほうが良い。地域に誇りを持った、地域を支えていく人材の育成に、関連するような取組があると良い。
- ・ 旧JAささかみはモデルサイトとして、エネルギーをもらえるような人を核としながら、踏み込まないといけないエリアだと思う。
- ・ OECM、30by30等の新しい概念や流れも取り入れられると良い。適宜、改定してブラッシュアップしていくと良いと思う。

【行動計画策定の進め方】等のご意見

- ・ 自治体が率先してその地域を守り育てていくという視点に立たないと、絵に描いた餅に終わる。その辺をぜひ理解いただき、様々なアクションを起こしていくというのは非常に大切と思う。首長という話も同様で、自治体の捉え方が重要と思う。
- ・ 本事業は生き物の情報をベースに、地域の環境資源を最大限生かして、地域の魅力を引き出し、観光、グリーンインフラ等も含めて、様々なインフラ整備を考えるものである。地域の持続性を考えていくプラットフォームとしていただきたい。
- ・ 現状、農業問題と自然保護に、法が大きな障害となる。本取組と同時に、様々な法律の改正を国は急ぐべきであり、協議すべき。法整備を進める上で、問題を洗い出して原点に立つと良い。モデル事業を通じて、自分たちで情報を集めても良いと思う。



第4回協議会の様子

第2回 自然環境活用部会 概要

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和5年3月2日（木）13:30～15:30

■プログラム

1. 開会
2. 議事
 - (1) 前回（第1回活用部会）の報告
 - (2) 行動計画（2030）の骨子（案）について
 - (3) 地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案
 - (4) 新潟県における観光について
 - (5) 北海道の国立公園におけるカフェの事例紹介
 - (6) ラムサール条約湿地自治体認証に関する取組
 - (7) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト（案）
 - (8) その他
3. 閉会変遷



自然環境活用部会の様子

【地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案】のご意見

- SNSや広報ツールを活用して取組を「見える化」することが重要。利活用する際のルールやマナーも発信する必要がある。
- 授業とイベントのコラボや学生がイベントのスタッフとして参加し学生がSNSによる情報発信ができるような取組ができればよい。
- ターゲットを明確化した方がよい。対象によって媒体の作り方や広報の進め方は変わるだろう。利用者のバックグラウンド（利用目的等）を解析、整理し、戦略を考えていくことが必要だと思う。結果、ウェブサイトで発信する情報の内容や、ターゲットもより明確になるだろう。ターゲットが曖昧なまま進めると、メッセージ性が弱くなったり、後になって齟齬が生じる懸念がある。一貫した方向性の広報を進めるとブランディングが整うようになる。イベント開催も同様。
- 年間通じたアクティビティの内容を整理すると良い。様々な取組みがあれば、複数の参画企業・団体の候補が考えられるだろう。
- 生態系ネットワーク形成事業が何を狙っている事業なのか、しっかりと自分たちも認識しておく必要がある。
- ハッシュタグを決めておくとうまい。検索ヒットさせるには、検索が一定となるよう定めていくことが重要。最初は既存のSNSと連携して、タグで関連であることを示してはどうか。後に認識する人が増えた時点で新規のアカウントを立ち上げると良いと思う。
- 生き物を調べたり、記録したりできるアプリなどを活用しても良いだろう。
- 適材適所で役割を担いながら、核となって進める人がいると良い。それぞれの取組について、主に関われそうな人材や、深い知識・経験がある人がいると思う。そのような人たちとのコンタクトを密にとり、方策を進められると良い。

【新潟県における観光について】のご意見

- 従来のオウンドメディアでページを作成するより、グーグルの登録情報をしっかりと精査した方がよい。

【北海道の国立公園におけるカフェの事例紹介】のご意見

- カフェは自然に入るインターフェースとして、非常に大事な観点である。自然に対する関心度を高める一つのきっかけとなる。
- 飲食物の提供など、モデル事業を進めながら利用者の欲求を確認し、利用する実績が確認できたら、次の展開を考えると良い。
- お茶を飲む空間と地域の環境資源を結びつけて、一つの売りとしていく視点は非常に大事だと思う。
- 福島潟は既存の場所も整備されており、雁晴れ舎や古民家の湯来亭というスペースもある。それらを活用していくと良いと思う。

【ラムサール条約湿地自治体認証に関する取組】のご意見

- ラムサール条約湿地自治体認証で、新潟市が世界的な水辺都市という着眼点で訪れる方もいるだろう。そのような方々をどう巻き込んでいくか、生態系ネットワークに関心を持ってもらうかというのでも検討した方がよいと思う。

【福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト（案）】のご意見

- 福島潟一周ウォークは良い取組。現代において健康づくりは一つのキーワードになっている。まちを知るために歩くことが健康につながり、仲間づくり、自然の重要性を学ぶ機会となる。
- ビュー福島潟の他にサテライト的な休憩場所が反対側等にあると良い。周ることが楽しいと思える環境づくりがあると良い。

【その他】のご意見

- 地域のプロダクトを発信し、販売促進等、農業者を支える仕組みづくりが重要である。農業者が地域で根付いて続けられるような仕組みづくりを、組み込んでいかないといけないと思う。そのために農業者に参画いただく必要がある。